

近藤浩一路は「光の画家」と言われています。

田園（でんえん）や林間風景（りんかんふうけい）、朝陽（あさひ）、夕陽（ゆうひ）、雨上がりのけしきなどさわやかな光あふれる美しい画面や、夜の闇（やみ）の中にほのかにとる家々の温かい光、灯火（とうか）が水面（みなも）に映（は）える微妙（びみょう）な光、動きのある強い光など、さまざまな光を見事に表現しています。



竹林朝陽(大正末期)

近藤浩一路の水墨画の特徴

浩一路の作品はいつも光と影が重要（じゅうよう）な役割（やくわり）をはたしています。洋画（油絵）で学んだことを水墨画の中に取り入れ、自分だけの特色（とくしょく）ある水墨画の世界をつくりあげました。



鴉飼の図（大正13年）

墨は五彩（ごさい）を表す

浩一路の作品には、表面的（ひょうめんてき）な墨色の濃淡（のうたん）だけではなく、画面に奥深（おくふか）さがあり、さまざまな色彩が表現されています。ぜひ、美術館で本物の絵を見て、作品の世界をお楽しみください。



雨後の櫻（昭和26年）

さ
ず
み



2026 夏休み自由研究プロジェクト

近藤浩一路記念 南部町立美術館

(こんどうこういちろきねん なんぶちょうりつびじゅつかん)

山梨県南巨摩郡南部町大和360番地

Tel: 0556-62-9292

Fax: 0556-62-9293

近藤浩一路（こんどうこういちろ）ってどんな人？

明治17年、南部町に生まれました。その後、静岡県に移り住み、韮山（にらやま）中学校（現・韮山高校）を卒業すると東京の美術学校（現・東京藝術大学）に入学し、洋画（油絵）を学びました。大学を卒業すると新聞社で漫画（まんが）や挿絵（さしえ）を描き、漫画家として有名になった時代もありましたが、日本画（水墨画）への志が強くなり、代表作となった『鶺鴒六題（うかいりくだい）』（1923）の発表後は水墨画家（すいばくが）として精力的に作品を発表していきました。いつの時代も描くことへの信念が強く、時代ごとに変化していく近藤浩一路の水墨画は、多くの人に愛されています。



TAKENOKOMAN
Illustration by Tatsuya Miyanishi

水墨画の歴史は、日本では鎌倉時代（かまくらじだい）に伝わり室町時代（むろまちじだい）にはいろいろな風景や植物、生き物が描かれるようになりました。歴史を調べていくと楽しいよ！

水墨画に挑戦してみよう！



墨（すみ）の濃淡（のうたん）で表現（ひょうげん）する水墨画（すいぼくが）は、さまざまな技法（ぎほう）がいくつか紹介（しょうかい）します。

【三墨法】（さんぼくほう）
一筆（ひとふで）で濃淡（のうたん）を作りたい場合に効果的（こうかてき）です。



①まずキレイな水でよく筆を洗う。（タオルでかるくふく）
②筆の穂先（ほさき）3分の2ほどまでうすい墨をつける。

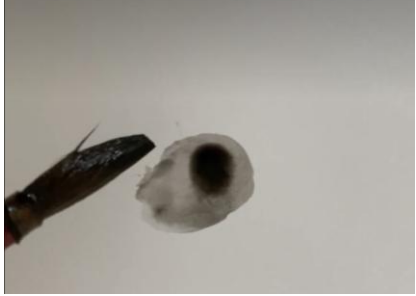
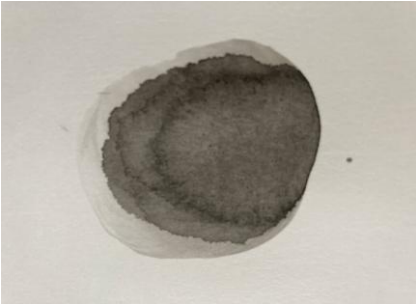


③筆の穂先（ほさき）にこい墨をつける。
④とき皿の上で、筆の穂先（ほさき）をややしけるように左右（さゆう）にゆらしなじませる。
⑤筆（ふで）にふくんであった水（みづ）が下地（した）になり、濃さ（のうさ）のちがう墨（ぼく）が、筆（ふで）の中（うち）でグラデーション（gradiation）を作（つく）ってくれます。



【破墨法】（はぼくほう）
うすい墨（ぼく）の上にこい墨（ぼく）を重ね（かさね）て、墨（ぼく）の変化（へんか）による質感（しつかん）、立体感（りったいかん）などを表現（ひょうげん）する技法（ぎほう）。

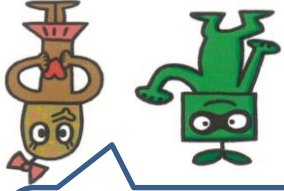
【たらしこみ法】（たらしこみほう）
水（みづ）がにじまない紙（かみ）に墨（ぼく）をのせると、描（え）かれた墨（ぼく）は吸収（きゅうしゅう）（きゆうしゅう）されずに、紙（かみ）の上（うへ）でおよいだようにたまり、とどまります。
どんな模様（もよう）になるかわくまで（は）わからない、という偶然（ぐうぜん）（ぐうぜん）のおもしろさ・抽象画（ちゆうしやうが）的要素（ようそ）（ようそ）もたのしめます。
ポイント：水（みづ）がにじまない紙（かみ）に描（え）くこと。



【積墨法】（せきぼくほう）
うすい墨（ぼく）を少しずつつかさねていく技法（ぎほう）（ぎほう）。立体感（りったいかん）（りったいかん）や質感（しつかん）（しつかん）を表（あらわ）すことができます。
動物（どうぶつ）など、細かい毛（け）や肌（かわ）（はだ）の感じ（かんじ）を出すために、この技法（ぎほう）をよく使（つか）います。
和紙（わし）はあえてにじむ麻紙（まし）（まし）などを使って、水（みづ）をひかえめにじくじくり重ね（かさね）ていきます。



輪郭線（りんかくせん）（りんかくせん）を描（え）かず、すべて濃淡（のうたん）（のうたん）を重ね（かさね）て描（え）いていきます。
時間はかかりますが、少しずつ立体的（りったいてき）にできあがってゆくという過程（かてい）（かてい）がたのしめます。



用具（ようぐ）と材料（そく）：
お習字（おしじ）のセットがあれば大丈夫（だいじょうぶ）。